オープン台地 in OSAKA

VOL.2

上町台地
UEMACHI DAICHI
大阪名物

イベントレポート

2012年2月 3・4・5日 FRI SAT SUN

17日 報告会開催

上町台地のまちびらき

上町台地ならではの建物や空間を一挙に開く
30のまちびらきプログラムコレクション！！
あなたもきっと上町台地に住みたくなる。

［発行］上町台地マイルドHOPEゾーン協議会
E-mail：info@uemachi-hope.net
H.P.：http://uemachi-hope.net/

オープン台地 in OSAKA VOL.2

イベントレポート

今回、2回目の開催となった「オープン台地inOSAKA」。協議会主催のプログラムを中心に連携企画やオープニング、クロージング企画も含めて30の企画を2012年2月3日（金）から5日（日）の3日間で実施した（クロージング企画は17日（金）に実施）。

都心に建ち並ぶオフィスビル群と歴史観光資源たっぷりの神社仏閣群や建築物等が混在するこのエリア。今、この新旧さまざまな文化が織り混ざるまちだからこそのユニークでクリエイティブな「上町台地都心居住スタイル」が広まりつつある。北は天満橋周辺から、南は天王寺周辺までの多種多様でリアルな生活空間を「住む」「働く」「楽しむ」という視点で一挙に紹介する。

今年のテーマは「上町台地のまちびらき」。毎年秋に開催される「オープン・ハウス・ロンドン」にならったこの催しは、前回のツアーコレクションから、今回はより本場英国のものに近い、街の建物やスポットをオープンするような形となった。

本レポートでは各プログラムについて写真を交えて紹介するとともに後半ではイベントの総括とアンケートをまとめた。

index

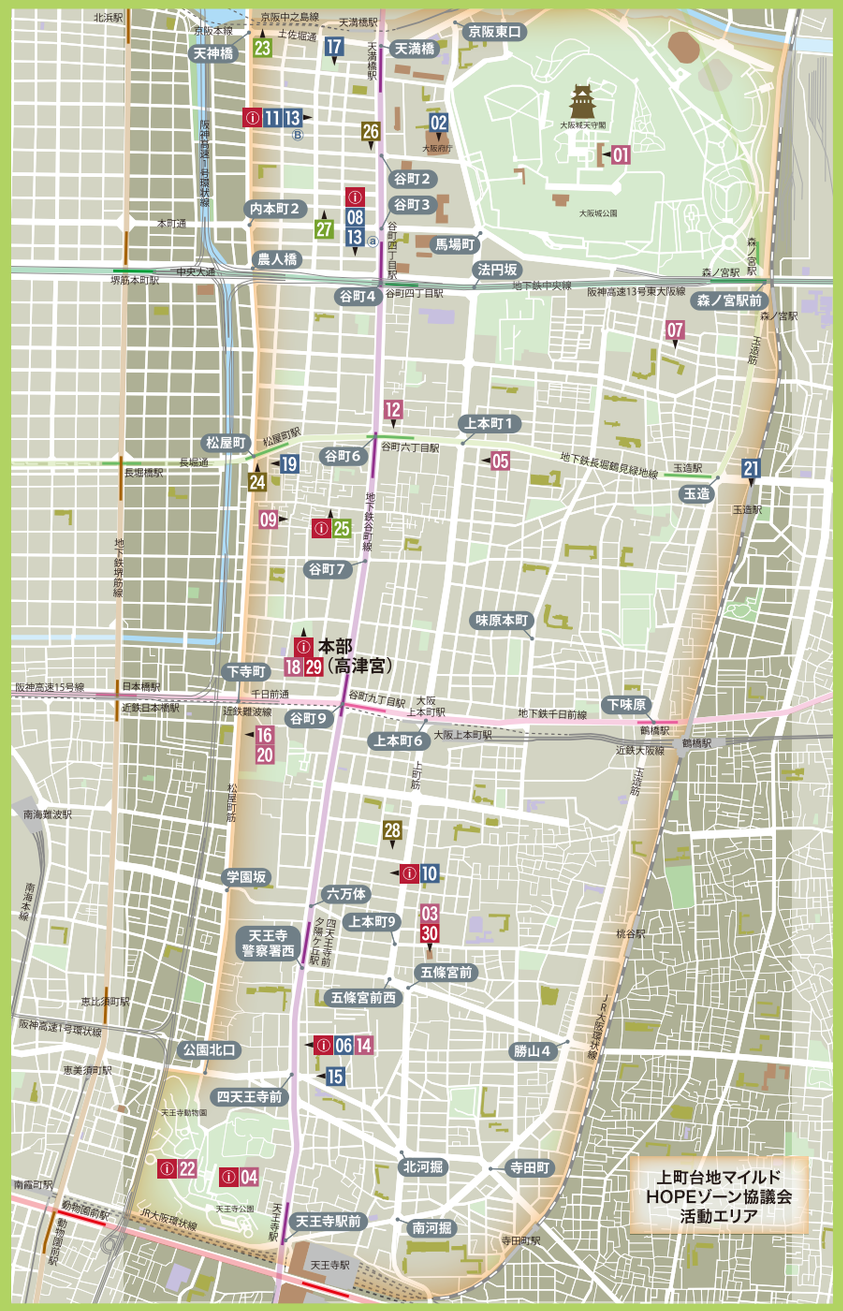
01 特別公開 旧大阪市立博物館
02 訪ねてみよう 大阪府庁本館
03 オープン区役所 in 天王寺
04 特別公開 慶沢園茶室「長生庵」
05 ようこそNEXT21へ
06 1400年のしごと展覧
07 建築家の仕事場、オープンします
08 空庭ビル開き
09 上町台地の「生活の柄2」
10 オープン台地meets留学生
11 『まちライブラリー』の集い
12 やま・まち繋GO～！
13 なかなかいいよ、中大江
14 四天王寺ツアー
15 四天王寺ぐるっとまるごとツアー
16 寺町界隈と生國魂神社ツアー
17 地下ワンダーゾーンツアー
18 上町台地タイムトリップ
19 オープン台地自転車ツアー
20 風景から考えてみる会
21 上町台地の抜け穴伝説ツアー！
22 上町台地オープンフェスタ！
23 おうちを設計してみよう
24 からほり丼をつくろう
25 ゆるカフェオープン！
26 煎茶のサロン
27 上方伝統芸能ナイト+α
28 ワン・ワールド・フェスティバル
29 オープニングレセプション
30 クロージングトーク

■イベント総括・アンケート

あちこちオープン 上町台地 まるごと マップ

「オープン台地」として開催される30のまちびらきプログラム。その会場と集合場所がひとめでわかるお役立ちマップ！

- 00 プログラム番号
- ⓘ インフォメーション
- 学校　病院　緑地・公園
- 交差点名　銀行
- コンビニエンスストア
- ガソリンスタンド
- その他の施設（官公庁など）



3日間にわたり、上町台地各所で開催しました！

イベント本部

高津宮
（中央区高津1-1-29）

2月4日(土)・5日(日)
10～18時 開設

特別公開

旧大阪市立博物館（旧第四師団司令部庁舎）

4土 **5**日（各日3回）ⓐ11：30～ ⓑ13：30～ⓒ14：30～（各回30分）

旧大阪市立博物館（中央区大阪城）　各回15名（要予約）

［企画］上町台地マイルドHOPEゾーン協議会　［協力］大阪市ゆとりとみどり振興局観光室

普段は非公開の「旧大阪市立博物館」。第四師団司令部の建物として昭和6年に建築され、昭和35年から平成13年まで博物館として利用されていました。建築意匠は、西洋の古城の様式をもとに設計されており、日本の古城建築に囲まれた立地から賛否がありました。外観もさることながら、建築当時の面影を残す大階段や2階の元貴賓室など、見どころのある建築物です。

各回ごとに正面玄関に集合頂き、まず外観から説明を行った。

外観の概要は、元軍事施設ということもあり質実剛健な造りとなっている。ネオ・ルネサンス様式と呼ばれるもので、正面中央のタレット（隅小塔）、軒回りに見られる装飾的なロンバルディア・バンド（小アーケード帯）、銃眼を思わせるパラペットの凹部分など中世ヨーロッパの城郭建築風でシンメトリー（対称）な外観となっている。また、建物表面も古城の意匠を基にスクラッチタイルで仕上げている。

正面玄関から、階段室へ入ると外観同様、内部もシンメトリーとバランスを基本に設計されている。廊下の各柱間に円形アーチがかかり、その下端の持ち送り部分は円形と三角形を組み合わせた珍しい幾何学的なデザイン。設計者はロマネスク様式を意識したとのこと。

階段を上がり、2階の師団長室や貴賓室に入る。当時の面影は天井や壁面のレリーフが残るのみであるが、当時の時代背景やエピソードを織り交ぜ説明を行った。

最後に、屋上へ上がり天守閣を近くに望む。見学者からは歓声が上がるほどの迫力であった。

説明は、市立中央図書館のレファレンスサービスやゆとりとみどり振興局からの資料を事前にまとめ行った。特に、設計者である第四師団司令部経理部職員のいきいきとした私見の入った報告書が残っていたため、これを中心に説明を行った。単に建物の概要だけでなく、設計者の思い、当時の社会状況、立地など様々な視点で説明を行ったので、好評を得たと思う。

普段開放されていないため、歩行の際には、高齢者等に配慮が必要と思われる。

（上町台地マイルドHOPEゾーン協議会事務局・榊原幸一）

大阪府庁本館は、1926年（大正15年）10月に完成した。我が国最古の現役庁舎であること、そして完成が1931年（昭和6年）完成の向いに建つ大阪城天守閣の再建より前であることはあまり知られていない。

設計は平林金吾氏（名古屋市役所本庁舎も設計）と岡本馨両氏の共同設計で、総工事費384万円。この額は当時の大阪府の一般会計の年間の予算規模約2200万円の18%。平成24年の大阪府の予算が2兆3000億円から換算するに、現在では約4000億円に相当する大事業である。

まずは外観。屋根勾配を排した水平の陸屋根の導入や石材及び白い疑似タイルを用いた三層構成の明るい外観意匠はモダニズム建築の先駆け。その先の正面玄関には紫雲石によるイスラム風唐草模様を施した彫刻装飾に、旧字体の“廳府阪大”の文字。そこを入るとイタリア産大理石が威厳を放つ3階吹抜の玄関ホールに圧倒される。ここでは、古くはブラックレイン（1989年）をはじめ、ヒーロー（2007年）、ドラマ：華麗なる一族（2007年）、プリンセストヨトミ（2011年）、そして最近でも逆転裁判（2012年）など、映画・ドラマの撮影が数多くなされている。

その後、建築当時の内装を再現し最近一般公開された「正庁の間」をはじめ、これも国会議事堂よりも古い「大阪府議会議場」、そして大阪鳥瞰図が展示された「公文書館」など、現役庁舎であるがため敷居が高いと感じる府庁内の“ここぞ”というところを50名近くの参加者が楽しんだ。

なお、当日は当本館の前の主、橋下徹“大阪市長“が会議で来庁。われわれの一行とすれ違い、「楽しんでください！」と声をかけられるというサプライズもあった。

上町台地にある数多くの由緒ある建築物の魅力、特に普段とっつきにくい印象の大阪府庁本館でさえ、貴重な地域資源として人を引き付けることを実感した。

（北大江地区まちづくり実行委員会・南健志）

上町台地北端、北大江地区にある日本最古の現役庁舎「大阪府庁本館」。庁舎としての歴史、特徴ある意匠など、お堅いイメージのある庁舎建築の深い趣を楽しまれたようです。映画やテレビドラマのロケなどでも利用されている庁舎、あの名シーンをイメージしながら見学された方もおられるのでわ？

3金 ⓐ10：00～ ⓑ13：00～ ⓒ15：00～ 各回90分・20名

大阪府庁本館　要予約

［企画］南健志（北大江地区まちづくり実行委員会）　［協力］大阪府

訪ねてみよう

大阪府庁本館

03 オープン区役所in天王寺

4㊏ **5**㊐（各日2回・各回30分）ⓐ10：30～ ⓑ11：30～　各回20名

天王寺区役所正面玄関（天王寺区真法院町20-33）予約不要・当日先着

［企画］天王寺区役所市民協働課

天王寺区役所の現庁舎は平成8年に竣工。玄関の車寄せ部分をはじめ、長年区民に親しまれてきた旧庁舎（昭和2年竣工）のクラシカルな面影をよく残した外観となっています。オープン台地では区役所職員がガイドとなり、旧庁舎のモダンなイメージを再現した講堂や、復元区長室なども案内しました。歴史と伝統が息づくまち天王寺を感じていただけたなら幸いです。

「区役所をオープンして、皆さんに見て頂こう」こんな想いから始めた「オープン区役所in天王寺」。区役所を見た後に各プログラムを回ってもらえればと午前中に開催したが、初日は寒かったこともあってか、1回目の参加者はゼロ。どうなるかと思っていたら2回目からは参加者もあり、翌日も合わせて12名の方にご参加頂いた。

ロビーに集まった方を前に、緊張しながらもまずは区役所庁舎の歴史を説明、皆さんに興味を持って聞いてもらえたのでひと安心。次に外にある「毘沙門池の碑」を説明して再びロビーへ。1階の区民ギャラリーと区役所業務を説明してから2階の復元区長室へ。あとは6階の区長応接室や5階の会議室をご案内、最後に旧庁舎にあった講堂のイメージを再現した3階の講堂へ。この講堂は、17日のクロージングトークにも使われたが、重厚な部屋の雰囲気に合った天井飾りや照明、また以前のステンドグラスを再現した窓などを紹介して、ご参加頂いた皆さんから感嘆のお言葉を頂戴した。

「本来、市民に開かれているはずの区役所が、本当に開かれると実に面白い」、twitterでこんなお言葉も頂戴した。普段、皆さんが区役所にお越し頂くのは、住民票などの手続きや選挙の期日前投票のときくらいだろうが、昔のイメージを復元して建てられた今の区役所庁舎を皆さんにご覧頂いて、区役所を少しでも身近に感じて頂ければありがたい。

（天王寺区役所市民協働課・森茂樹）

04 特別公開 慶沢園茶室「長生庵」

4㊏ 9：30～17：00 園内ガイド(各20名・先着順) ⓐ10：30～ ⓑ13：30～（各40分）

天王寺公園慶沢園内（天王寺区茶臼山町1-108）

［企画］天王寺動植物公園事務所・上町台地マイルドHOPEゾーン協議会

慶沢園は、元住友家茶臼山本邸内の庭園として木津聿斎（いっさい）が設計し、京都の名庭園師小川治兵衛の手により大正7年に完成しました。大正10年の住友家転宅にともない、昭和元年に慶沢園を含む茶臼山一帯の土地が大阪市に寄付され、天王寺公園の一部となったものです。今回、園内の茶室「長生庵」を特別公開。開発の進む天王寺エリアのもう1つの魅力を体感していただけたのではないでしょうか。

慶沢園は、第十五代住友吉左衛門（春翠）の茶臼山本邸の庭園として造られたもので、設計は木津聿斎、監督・施工は平安神宮神苑、円山公園など数々の庭園を手掛けた第七代小川治兵衛（植治）が行い、大正7年に完成した。大正10年住友吉左衛門より寄贈の申し出があり、昭和元年に大阪市に茶臼山一体が寄贈され、現在も天王寺公園内の施設になっている。また、現在の「長生庵」は、慶沢園内にあった茶室を昭和35年に移築したもので、都会の中にある、由緒ある茶室であるにも拘わらず、有料施設であるためお茶会等で借りられる方以外は室内を見学することができない状況である。

そこで今回、本イベントで広く皆さまに室内を見学して頂き、知ってもらうことで、多くの方々に利用して頂ければと考え、特別公開を実施したものである。

更に、一層魅力を感じて頂くため、慶沢園ガイドを10時30分からと13時30分からの2回実施した。

事前に興味をもって来られる方もおられたが、当日はとても寒かったため、参加者が少なく、今後はもう少し暖かい時期に実施できればと思う。

（天王寺動植物公園事務所・大川典子）

05

ようこそ 大阪ガス実験集合住宅 NEXT21へ

4(土) 13:30〜15:30
大阪ガス実験集合住宅NEXT21（天王寺区清水谷町6-16） **30名**（要予約）
［企画］大阪ガス株式会社

近未来の住まいと暮らしを探求する大阪ガス実験集合住宅NEXT21。1993年秋に竣工して以来、さまざまな居住実験を行っています。今回は特別公開で、立春の屋上庭園から上町台地を眺め、最新の改修実験住戸「住み継ぎの家」をご案内し、スマートで健やかな暮らしを支える次世代の住まいを体感いただきました。1階コミュニティコーナーでは「上町台地百人一句」の展示も。

大阪の歴史・文化の原点ともいえる上町台地上に、近未来の住まいと暮らしを探求する大阪ガス実験集合住宅NEXT21が竣工したのは、1993年10月のこと。環境問題や少子高齢化への対応など、持続可能で豊かな住まい・暮らしを実現していくために、1994年4月からさまざまな居住実験を継続している。また、2007年2月から、建物1階に上町台地界隈の多彩な資源を紹介するウィンドウ展示のコーナー（U-CoRo）を設け、人と人、人とまちのつながりづくりにも取り組んできた。

高木の茂る屋上からビオトープが設けられた地上まで、緑に包まれた建物を、日ごろから多くのみなさまが興味を持って眺めてくださっていたのではないかと思う。今回、オープン台地の開催に合わせて、この実験集合住宅の一部を一般のみなさまにご覧いただく機会を設けることができた。ちょうど昨秋、次世代住環境のあり方を提案する改修住戸「住み継ぎの家」が完成したところでもあり、この住戸をご案内するとともに、スケルトン・インフィル（躯体住戸分離）方式の建築システム、家庭用燃料電池等による高効率なエネルギーシステムなど、立体街路を巡りながらご覧いただいた。

東日本大震災以降、暮らしの見直しやエネルギーに対する関心が、非常に高まっていることも参加者の声から強く感じた。今回は諸般の事情で定員30人だったが、できればより多くの方にご参加いただき、こうした機会をとおして、よりよい住まい・暮らし・まちづくりを、ともに実現していくことができれば幸いである。

（大阪ガス株式会社・弘本由香里）

当社は、社寺建築を専門とする建設会社である。創業は西暦578年、四天王寺創建に携わった宮大工をルーツとする。以来、四天王寺伽藍をお護りするため、1400年余り、この上町台地に拠点を構えてきた。しかし、実際に工事を行う場所は全国各地の社寺であるため、意外と近隣の方々に当社の仕事を知って頂く機会が少なかった。そこで、当社の仕事を知って頂くために、本イベントを企画した。

普段はガレージとして使用しているスペースを会場とし、2009年に施工した身延山久遠寺五重塔復元工事の写真パネル、古写真、継手・仕口模型などを展示。会場の入口には、法然寺五重塔新築工事（2011年施工）の模型を設置し、看板替わりとした。さらに、30分程度、宮大工による手斧（ちょんな）・槍鉋・台鉋の実演も行った。結果、最も人数が多かった2日目の実演時には、30〜40名ほどの方に集まって頂けた。

一番の成果は、近隣の皆様に当社について知って頂けたことである。特に古写真の展示では、「小さいころに見た」などの感想もあり、当社とこの地との深い関わりを感じることができた。また、谷町筋に面した、人目につきやすい場所だったため、元々イベントをご存じない、通りがかりの方に立ち寄って頂けたことも成果である。

しかし、会場が狭く、後ろの見学者から実演が見づらくなってしまった。前後の入れ替えなどで対応したが、安全管理上、反省点は多い。また、当社の仕事内容については色々と紹介できたが、上町台地と関連する展示があまりできなかった。せっかく上町台地全体で行っているイベントであるので、その点をもっと生かした企画にできればより良かったのではないかと思う。

（金剛組・花尻千秋）

金剛組は西暦578年(飛鳥時代)の創業。聖徳太子の命を受けて百済の国の工匠が四天王寺の建立に携わったのがそのはじまりで、世界最古の企業だといわれています。オープン台地では本社1階のパーキングスペースを開き、木組模型の展示や映像の上映などにより、1400年間受け継がれてきた仕事を公開しました。特に、14時から会場で行われる宮大工の実演はギャラリーができるほどでした。

4(土) **5**(日) 12:00〜16:00　予約不要・時間内観覧自由
金剛組本社1階パーキングスペース（天王寺区四天王寺1-14-29）
4(土) **5**(日) 14:00〜（15分程度） 宮大工の実演も！
［企画］株式会社金剛組　［協力］和宗総本山四天王寺

06

1400年のしごと展覧 ―飛鳥から未来へ―

07 建築家の仕事場、オープンします

4土 ⓐ14:00～ ⓑ15:00～（各回30分）

無有建築工房（中央区玉造2-2-1 日ノ下商店ビル2002）各回**10**名（要予約）

［企画］上町台地マイルドHOPEゾーン協議会　［協力］無有建築工房

無有建築工房は、大阪市立大学大学院で指導にあたる建築家・竹原義二氏が主宰する設計事務所で、玉造・森ノ宮エリアの閑静な住宅街のなかにあります。オープン台地では、実際に設計実務が行われているまさにその場が開かれました。ご都合が合い、竹原義二氏ご本人から建築のお話を聞くこともできました。

2月4日(土)の午後2時と午後3時より「建築家の仕事場、オープンします」というタイトルのもと、建築家・竹原義二が主宰する設計事務所である無有建築工房を開放し、事務所の見学、設計実務を行っている様子の見学を行い、竹原自身より設計事務所の日頃行っている設計業務や計画の中での検討の仕方について説明を行った。事前予約制という形で午後2時より6名、午後3時より4名に参加していただいた。参加者の年齢層は様々で、建築家の仕事に興味をお持ちの方、無有建築工房の入っている日ノ下商店ビルに興味をお持ちの方など参加理由も様々で、参加者の興味のある内容を中心に竹原と対話をしていただいた。

参加者は普段目にすることのできない建築家の設計事務所の業務内容や、実際の設計図面や模型などを直接見て、触れることで、建築家がどのようなことを考え、どのような過程を経てひとつの建築をつくっているのかを、一部分ではあるが知ってもらうことができた。

無有建築工房のある日ノ下商店ビルは竹原の設計によるもので、参加者に建物の中に入っていただくことで、竹原がつくる空間を体感していただき、設計図を見ながら意匠・構造・設備に渡り設計意図などを説明し、より理解を深めた。

日ノ下商店ビルを以前からご存知で、特徴的な外観をもつこの建物に興味をもっておられた参加者には、建物の内部の用途や街並に対する配慮などを知っていただくことができ、より興味と関心を深めていただいた。

今回の試みによって、まちに建築家の設計事務所を開放することの意味について考えさせられた。

参加者は少数ではあったが、建築家の職能に対して理解・興味を深めていただくことで、まちに建つ建築や街並への意識を喚起し、これからの生活や住まい、まちづくりに還元されることを期待している。

（無有建築工房・岡本）

08 空庭ビル開き

4土 **5**日 11:00～16:00

山内ビル（中央区常磐町1-1-8）　予約不要・時間内観覧自由

［企画］谷町空庭　［協力］常磐ソース入居者のみなさんなど

谷町四丁目からほど近い自宅兼テナントビル「山内ビル」。家族以外の人とも共有できるよう自宅の一部を改修したカフェ・サードスペース「谷町空庭」や、多分野の人・グループが集うシェアオフィス「常盤ソース」を展開中。当日は時間内観覧自由なので、ほかのツアーの前後にも立ち寄っていただいたようです。ちょっぴりユニークな空間を通して、このまちの魅力を感じていただけたなら幸いです。

谷町四丁目に立地する、店舗や住居として利用している山内ビルを、より多くの方に訪ねてもらい、ビル全体で楽しんでもらおうという企画、空庭ビル開き。このビルの6階と屋上は、谷町空庭という名で、常日頃から住み開きをしている（5階を居宅としている）スペースとなっているが、4階や、また新しくシェアオフィス化しようとしている2階もふくめて、ビルの活用の一端として見てくれればという思いもあり、j実行した。

4階では、常盤ソースという名で、シェアオフィスとして、フリーで働く個人や団体等に小さなスペースを貸し出しているが、その入居者の方にもお世話になり、来訪者にシェアオフィス体験をしてもらったり、シェアオフィスの趣旨や日常の雰囲気を伝えてもらうなど、協力いただいた。

また、6階と屋上は、いつも通り、個人が好きなように時間を使い、時間のあるかたは、簡単な和菓子づくりをしてもらったりと、ゆっくりしてもらったり、屋上畑の様子や、育てている植物の説明などもおこなった。

ビルにいろんな人が訪れることを私たち家族は歓迎している。ビルの空間の一部を利用したいという人がいれば、喜んでお貸しする。そのためには、準備も必要だし、お貸しした後の日常的な交流、いいたいことはいいあえる関係づくりが必要だ。いろんな人が出入りするだけで大変な気も起きるが、それだけビルがいきいきとし、このビルを必要だ、面白いと思ってくれる人がいる限り、これからも続けていきたいと考えている。

（谷町空庭・山内美陽子）

09

上町台地「生活の柄2」
～ドキュメンタリーは嘘をつく？～

4土 18:00～20:00 **5**日 12:00～18:00　予約不要・時間内閲覧自由

長屋再生複合ショップ惣-SO-集合（中央区瓦屋町1-6-2）

［企画］小辻昌平（直木三十五記念館）

他人の暮らしぶりというものには興味があるものです。そこで実際に空堀の長屋の自宅「苦楽庵」を公開しました。つくりこまれたものではなく、生活の場をそのまま見せる実験的な試みは、昨年度のオープン台地で実践済み。脚色がないありのままの生活環境を楽しんでいただけたなら幸いです。

前回に引き続き今回も自宅の開放を実施した。からほり倶楽部が長屋と地域コミュニティの問題に着手してから十年、俗に「からほり」と称されるこの界隈を象徴する住環境である「長屋」の暮らしの実際がどのようなものかを知る人は意外に少ない。

現代の長屋暮らしというものをたとえば「リノベーション」や「住み継ぎ」としてという文脈で語られたりすることも多いが、暮らしの当事者としてはあまりにもきれいにまとめられ過ぎて、リアリティに欠けると言える。

当然ながら事業者にとって「リノベーション」という側面から言えば長屋は商品であり、研究者が「住み継ぎ」を語るのは学問領域である。市民レベルでの「オープンハウス」であるならば、事業でも学究でもない姿で長屋を提示することができるのではないかと考えた。

今回の実施で約30名程度の方に実際に我が家を訪れていただいた。二畳間にあがり、周囲を眺めて、いろいろと私に質問をしてこられた方もいらっしゃれば、入口のドアを少しだけ開け、遠巻きに中を覗うようにしていた方もいた。人それぞれの長屋暮らし観察があったのではないかと思う。

実は、自宅の開放をオープン台地以前にからほりまちアートにて過去2回実施している。この時は「架空の作家の自宅を公開する」という物語を付け加えて公開したり、自宅内に立体造形作品を置いたりして「アート」という手法を使って意図的に個人の家というバリアを解放する試みを実施した。しかし、オープン台地での自宅公開はあくまでもドキュメンタリーとしての「家」を中心的に捉えて「まち」と「ひと」と「家」の関係を浮かびあがらせたいと思った。

最後に余談のようになるが、タイトルである「ドキュメンタリーは嘘をつく？」は尊敬する森達也さんの「ドキュメンタリーは嘘をつく」をオマージュして「？」を付加して意味するものの置換を行った。加えて「生活の柄」は大好きな高田渡さんが山之口獏さんの詩に曲をつけた歌なのだが、第1回オープン台地のプロデューサーであるアサダワタルさんと高田渡さんの名前が似ていたので「生活の柄」が頭に浮かんだことも付け加えておく。　（直木三十五記念館・小辻昌平）

10

オープン台地meets留学生
世界のお茶とひとこと語学教室で国際交流

4土 **5**日 13:00～16:00 留学生のおもてなし　10:00～17:00 学生食堂開放

大阪日本語教育センター（天王寺区上本町8-3-13）　予約不要

［企画］独立行政法人 日本学生支援機構 大阪日本語教育センター

大阪日本語教育センターは、日本の高等教育機関への進学を希望する外国人留学生を受け入れ、将来日本と各国との友好促進のリーダーとなる人材の育成を目指しています。オープン台地では普段学生が使用する食堂を開放し、各国の留学生が自国のお茶とお菓子、ひとこと語学教室で来場者をおもてなし。まちあるきや国際交流センター開催のワン・ワールド・フェスティバルで疲れた方にもお寄り頂きました。

大阪日本語教育センターで学ぶ世界各国から来た留学生たちが、お国のおいしいお茶やお菓子を日本の皆様にもてなそうという企画。当日は中国、台湾、韓国、インドネシア、ベトナム、カタール、サウジアラビア、イランの学生達が入れ替わり立ち替わり主催者側として参加した。

普段は留学生だけで生活しているため日本人と接する機会があまりない留学生達、この日を心待ちに準備万端整えていた。

初日はちらりほらりのお客さんで留学生達は手持ちぶさたな様子。たくさん用意したサウジアラビアの独特のいい香りのするコーヒー（白い）やナツメヤシを甘く煮た“デーツ”という代表的なお菓子を他の国の留学生に振る舞い、日本語で楽しげな会話が続いていた。

２日目はサウジアラビアの女子学生達が隣の国際交流センターで開催されていた「ワン・ワールド・フェスティバル」にビラを作って配布しに行き、お客さんをたくさん呼び込んだ。前日とは打って変わって大盛況の食堂。あっという間に会場は国際的な雰囲気に包まれた。「ワン・ワールド・フェスティバル」に来ていた外国人の方もサウジの女子学生の「無料ですよ。来てください。」というかわいい呼びかけに応じてやって来てくれた。

サウジコーヒー、サウジ紅茶、ベトナムコーヒー、中国茶、インドネシア茶、など様々なお茶をお出しし、それぞれのテーブルで日本語で国の紹介をしたり、会話を楽しんだり、ひとこと語学教室ということで国の言葉であいさつなどを教えたりし、お客さんに楽しんでいただいた。

大阪日本語教育センターでたくさんの留学生が日本語を学んでいるということを初めて知ったという方が多く、「また遊びに来ます。楽しかったです。」と言っていただけて一安心。

やはり事前の告知、当日の集客が次年度以降の課題と言えるだろう。学生にとっても来ていただいた日本人、外国人の皆さんにとっても楽しい有意義な企画であった。

（(独)日本学生支援機構 大阪日本語教育センター・磯田郁子）

11

天満橋・谷町

『まちライブラリー』の集い

4㊏ 13:30〜16:00（**4**㊏ **5**㊐ 10:00〜17:00 ライブラリー開放（予約不要））

ISまちライブラリー（中央区内平野町2-1-2 アイエスビル3F） **20名**（要予約）

［企画］まち塾@まちライブラリー実行委員会（礒井純充）

まちライブラリーとは、カフェやギャラリー、オフィスや住宅の一角に本棚を置き、そこにメッセージ付きの本を持ち寄り交換しあう、人と人との出会いを紡ぐ活動です。「ISまちライブラリー」は日本で最初に誕生したまちライブラリーです。この日は、『本』を持参いただいて『本』紹介や『まちライブラリー』で上町台地を楽しくする語り合いをしました！

上町台地北端、八軒家浜からまっすぐ南に延びる熊野街道に面した築36年のアイエスビル。その一角に「ISまちライブラリー」は誕生した。オフィスビルテナントの人や近所に住む人たちが、吉野杉を買い、なれない手つきで大工道具を使い、「本棚」や「テーブル」や「長椅子」を一緒になって作り上げた「まちライブラリー」である。

「まちライブラリー」の仕組みは簡単。まち角にあるカフェや居酒屋、お寺や神社、オフィスや住宅の一角に「小さな本棚」を置く。そこに集う人が「本」を置き、メッセージを付けて交換しあうのだ。共通の「ブックシール」「付箋」「図書貸出カード」に「メッセージカード」で構成された共通の「まちライブラリー」グッズも用意されている。「まちライブラリー」のサインを付けた「本棚」を目印に思い思いの「本」を持ち寄り、出会いの場を提供しようというものである。時には、その場で「まち塾」というお互いの学びあいの場を創り、わいわい楽しく語り合う。

2月4日（土）午後、上町台地「オープン台地」の一環で「ISまちライブラリー」は、“オープンカフェ”として開放された。思い思いの本を片手に集まって来られた10名程の人たちが、中国茶を飲みながら持ち寄った「本」を紹介し、お互いの考えていること、感じていること、興味をもっていることなどを語り合っている。更にその「本」を交換し、楽しいひと時を過ごした。ビル屋上にはパラソルが添えられた小さな木のデスクと椅子が置かれた「空庭」がある。参加者は、ここを見学し、短い時間ではあったが上町台地の一角に「学びあい」と「出会い」の拠点があることを確認しあって暖かくなる日を想像しながら再びここで「まちライブラリー」をやる日を楽しみに散会した。

（まち塾@まちライブラリー実行委員会・礒井純充）

「本」を置き、借りあうことを通して人の縁を紡ぐ活動をしているまちライブラリーがアイエスビル内にある（左頁参照）。一方、このやままちライブラリーはＬＬＰ吉野やままちが“木、山、林業”などの本を置くライブラリーとして２月に開設。この度のオープン台地で、このライブラリーはグランドオープンした。

参加者にはお家にある木に関する本を持参いただき、自己紹介を兼ねてその本の紹介をしてもらった。それらは偏ることなく、絵本、写真集、文庫本、家具作品集やバナナの木で出来た本などさまざまであった。一口に「木の本」といっても、人によって関心が向くところは異なり、これだけの種類の本が集まったことがおもしろかった。

カタリストとして、奈良県吉野町の山守（山を守る木こり）と街で住宅設計をする設計士がそれぞれ、山側と街側の立場で山の現状、林業のしくみや木の魅力を熱く語った。参加者は彼らの熱い思いを受け止め「自分だったら、どうするか」「こんなことをしたらどうか」というメッセージを書き込んで２人に贈り、「木」についてそれぞれの思いを交わした。１回目にしては想像以上に山と街を繋ぐことが出来たのではないかと思う。

ワークショップでは和紙とヒノキの単板を使いオリジナルブックカバーづくりを行った。終了時刻を超過していたにも関わらず、参加者は夢中になって制作。木で出来た商品に触れることはあっても商品となる前の木に触れることは日常少ないため、カッターで切ったり、曲げたり、貼り付けたりするときの加工のコツや木の性質を体感してもらうことが出来た。

このライブラリーを通して、もっと山と街を繋げていきたい。

（LLP吉野やままち・内田利惠子&坂田かおり）

今年2月OPENのやままちライブラリーは、“木”に関する本や雑誌を置いた、やまとまちを繋げるライブラリー。木の家、木の家具、山や林業など…“木”に関するあなたの「お木に入りの本」（木の器、木の玩具もあれば）をお持ちいただき、それらの魅力をまだ知らないほかの方に伝えました。この日は奈良県吉野町の木こりさんを迎えて、木の魅力やおもしろさをみなさんと楽しくお話しました。また、ワークショップ「木のブックカバーづくり」も開催！

5㊐ 14:00〜16:00

建築設計室Morizo-（中央区安堂寺町1-6-16） **15名**（要予約）

［企画］LLP吉野やままち

12

オープンライブラリーで

やま・まち繋GO〜！

13 なかなかいいよ、中大江

4土 ⓐ11:00〜ⓑ13:30〜 各回90分・15名

ⓐ常盤町周辺ツアー **山内ビル**（中央区常盤町1-1-8）　ⓑ内平野町周辺ツアー **アイエスビル**（中央区内平野町2-1-2）

［企画］山内美陽子(谷町空庭)・やすいじゅんこ(ファブリックアート工房 エクリュ)
［協力］中大江地域のみなさん

谷町四丁目の北に広がる中大江地域。ビジネス街のイメージが強いエリアですが、実はそれだけではない「住むまち」としての魅力があります。このまちの小さくも素敵なスポットをつらねたマップ「なかなか中大江」を手に中大江の住人2人がガイドとなってまちをご案内。また随時マップの配布をし、ツアー時間以外でもお楽しみいただきました。

谷町四丁目～天満橋の、中大江地区に住み働く山内美陽子とやすいじゅんこが、それぞれが住む界隈を紹介する、「なかなかいいよ、中大江」ツアー。この界隈は、さほどに特徴的なものがあるわけではないエリアだが、よく見ると面白い店や、知られざる地域の歴史や、なぜここに立地している？という会社まであり、素朴だけれど楽しいツアーとなった。

まず午前。常盤町周辺ツアー。簡単にいうと、谷町空庭から→大阪銀行協会→井原西鶴辞世の碑→刀工の碑→器ギャラリー→地域に長く根ざす洋食屋→ゼブラボールペンの会社と、明治よりある一久味噌㈱→nidomiとdeaf caféという2つのカフェの紹介を店の方自ら→足をのばし南大江地区に行き、太閤下水見学まで。お店はこの間に10軒以上は紹介。計南北5筋を往来したが、普段いつも見慣れているところを説明して歩くのは新鮮であり、個人的な思いやつながりも伝えられるなど、楽しく貴重な体験でもあった。

そして午後は、内平野町周辺ツアー。天満橋という場所は官庁街でもあるので、以前はオフィス街に少数の住人が住んでいるというまちだったが、今回のツアーで、アート専門の古本屋さん、オリジナルの時計屋さん、ギャラリー、おしゃれなカフェなどを案内しながら、どんどん魅力的なまちに変化していってることに驚き、これからを楽しみに思った。

普段なにげなく通過するところでも、面白みはあるし、人の話や地名の由来などを知ると、昔も今もやはりつながっているんだなということが実感できる。

課題としては、事前に「見学したい」のお願いができなかったところがあること。今後の楽しみとしてこれからしていきたいと思う。

（谷町空庭・山内美陽子）

世界最古の会社とされる金剛組によるオープン台地のまちびらきプログラム「1400年のしごと展覧 ー飛鳥から未来へー」との連携ツアーとして企画された「四天王寺ツアーーその建築と心ー」。金剛組を見た後に、その匠の技で実際にどんなものが出来上がるのか、を四天王寺の諸堂を拝観することで見て触れていただこうというプログラムである。

当日はまず、木組みの模型などが並ぶ金剛組の会場にて棟梁による実演を見学。手斧(ちょんな)や槍がんな、かんなによる製材の解説を受けた。向こうが透けて見える極薄のかんな屑が長く取れると自然と歓声が湧く。その後、いよいよ四天王寺境内へ。江戸時代初期の建立である中之門、桃山時代の様式を残す重要文化財の元三大師堂、明治の鐘楼建築である英霊堂、江戸初期の重要文化財である六時堂など、ほぼ完成された様式の木造建築を見学していただき、寄棟造りや入母屋造りなどの説明をした後、中心伽藍に入った。戦後の再建で鉄骨鉄筋RC造ながら飛鳥様式を忠実に再現した伽藍の解説を行い、先ほどまでの時代の下った木造建築との組物や垂木の様式の違いを説明した。大工道具で南無阿弥陀仏の文字をかたどった幟の立つ番匠堂と四天王寺建立時の牛馬を祀る石神堂では少し趣向を変え、聖徳太子と大工集団との関わりや日本の精神文化に触れた。最後に重要文化財の五智光院を拝観し、濡れ縁の表裏の仕上げの違いや、畳の下の床材に残るかんな跡を見ていただいた。棟梁の実演を振り返り、数百畳の大空間を実現するのにいかに莫大な手間と匠の技術と情熱が必要であったかを感じていただけていれば幸いである。

（上町台地マイルドHOPEゾーン協議会・坂本峰徳）

和宗総本山四天王寺は、西暦593年聖徳太子によって創建された日本仏教最初の大寺で、境内には国重要文化財である五智光院や六時堂をはじめとした数多くの建造物や庭園があります。四天王寺の境内では、日頃非公開の建築物内部も見学。四天王寺建立に携わった金剛組で、1400年の伝統を守る宮大工の実演を観覧しました。伽藍をめぐり、悠久の歴史と時代の精神に想いをはせられたのではないでしょうか。

14 四天王寺ツアー ーその建築と心ー

5日 14:00〜16:00

金剛組本社玄関前集合（天王寺区四天王寺1-14-29）　**20**名（要予約）

［企画］上町台地マイルドHOPEゾーン協議会　［協力］和宗総本山四天王寺・株式会社金剛組

15 四天王寺ぐるっとまるごとツアー

4土 13:30〜15:30

四天王寺石鳥居前集合（天王寺区四天王寺1-11-70先）　15名（要予約）

［企画］上町台地マイルドHOPEゾーン協議会　［協力］和宗総本山四天王寺

和宗総本山四天王寺の境内を僧侶の案内で見学。「五重の塔」や「極楽浄土の庭」のほか、徳川家代々の位牌を納めた「五智光院」、聖徳太子の一生の事蹟が描かれた絵伝が安置される「絵堂」など、日頃は非公開の建物も特別にご覧いただきました。

※本プログラムは、大阪商工会議所「なにわなんでも大阪検定合格者のつどい in 上町台地」との合同企画です。

1400年の歴史を持つ四天王寺をOPENするにあたり、「大阪検定」を主催する大阪商工会議所による「なにわなんでも大阪検定合格者のつどい in 上町台地」との合同イベントとすることで上町台地マイルドHOPEゾーン協議会のテーマである「各団体との連携」をも目に見える形で示した「四天王寺ぐるっとまるごとツアー」。普通に観光に来たのでは聞くことのできない四天王寺僧侶による解説付きで、知っているようで知らない大阪の仏壇、四天王寺の魅力に迫る企画である。

当日は四天王寺支院の中でも愛染まつりで有名な勝鬘院住職の山岡武明師がガイド役を勤め、①石の鳥居から②中心伽藍、③聖霊院、④極楽浄土の庭、⑤六時堂をまわった。

住職の笑いありお説法ありの巧みな話術に引き込まれ、①では石の鳥居の扁額を手始めにポンポン石、引導石、極楽門を見学し、夕陽丘と日想観、四箇院の解説を受けた。②では五重塔を実際に登った後、白鳳時代の遺構を見学、聖徳太子ならびに四天王寺の縁起の解説を受けた。③では普段参拝することのできない守屋祠ならびに杉本健吉筆の聖徳太子絵伝壁画を収めた絵堂を拝観。④では二河白道の解説を受け五智光院、湯屋方丈を見学。⑤では六時堂ならびに石舞台を見学し、無形文化財である聖霊会の解説を受けた。あっという間でまだまだ聞き足りないと思ったものの、実際は予定時間を大幅に超過する盛りだくさんの内容となった。

心配された検定合格者とオープン台地一般参加者の基礎知識の差は特に意識されるシーンはなく、一様に熱心に住職の解説を聞いていただけていた。両方の参加者の方たちが、ますます上町台地に関心を持ち、大阪を好きになる一助となれば幸いである。

（上町台地マイルドHOPEゾーン協議会・坂本峰徳）

「寺町界隈と生國魂神社ツアー」は、天王寺区の下寺町エリアにあるお寺や神社を巡るプログラムである。一部では「霊界ツアー」という通称で呼ぶ声もあり、物語性の高いスポットを採り上げたコンセプトが特徴的であった。

ツアーのスタート地点は、日本一若者が集まるお寺「應典院」の1階フロア。一見しただけではお寺とは思えないような、見事なホール型建築となっており、演劇やアートなど、若い世代も巻き込んだ多彩な活動が営まれているとのこと。ご住職からは、下寺町がどのような経緯で形成され、独自の宗教文化を持つに至ったのか、主に歴史文化に基づく視点から解説をいただいた。

次は、同じく下寺町の「光明寺」に移動。普段は一般には公開されていないところ、今回のオープン台地では特別に中を見学させていただくことができた。本堂は大変ご立派で美しい内装となっており、参加者は寺院建築の奥深さを味わっていた様子。ここでもご住職からご挨拶いただき、下寺町に対する愛着を語っていただいた。

源聖寺坂を経由して、最後のスポットである「生國魂神社」へ。下寺町エリアでも最も有名な場所の1つであり、一般の参拝客も多くいらっしゃっていた。神主さんに広い境内を紹介していただきながら、生國魂神社に関係が深い井原西鶴や高津宮の話題も登場し、様々な観点から神社の歴史について体系的に知ることができた。

普段からお寺や神社に通い慣れているという方はそう多くはないはずで、日常生活内におけるそのような場への関わり方や、その意義を見つめ直すための、良い機会となったのではないだろうか。

（プログラム参加者）

16 寺町界隈と生國魂神社ツアー

4土 13:30〜15:30

應典院1階玄関前集合（天王寺区下寺町1-1-27）　15名（要予約）

［企画］上町台地マイルドHOPEゾーン協議会

上町台地の南半分、南北約1.3kmにわたって寺院が続く下寺町。日本一若者が集まる寺として有名な劇場型寺院「應典院」と、300年前の創建当時に描かれた狩野派絵師の見事な壁画が残る「光明寺」を特別見学。「天王寺七坂」のひとつ、源聖寺坂を上って、最後は生國魂神社の境内をめぐりました。

※本プログラムは、大阪商工会議所「なにわなんでも大阪検定合格者のつどい in 上町台地」との合同企画です。

ここほれワンだぁ！

上町台地地下ワンダーゾーンツアー

4㊏ 10:00〜12:00

北大江公園集合（中央区石町1）　**20名**（要予約）

［企画］竹岡寛文（バード・デザインハウス）

昨年ご好評いただいた、台地をまるごとオープンしてしまう地下ツアー。普段は見られない谷町沿線の地下スポットを地下鉄でめぐります。①北大江謎の地下室②太閤下水（秀吉時代整備の背割下水、明治に改良され今も現役）③地下水（老舗花屋の名水をご紹介）④上本町ハイハイタウン前で解散。その後は自由に地下ランチなどをお楽しみいただきました。

昨年開催し、好評いただいた“地下ツアー”の第2弾。今年も上町台地の地下空間をまるごとオープンし、それらを“地下”鉄を使ってめぐろうというプログラムである。今回もたくさんのご予約をいただき、キャンセル待ちが出るほど。

本ツアーは地下鉄での移動をともなうため、まずは、集合場所の北大江公園で点呼用にチーム分け。4つのチームはそれぞれ人数がそろうと、「ここ！」「ほれ！」「ワン！」「だぁ！」とみなで声を張り上げる。参加記念品として配られたおそろいの缶バッチと相まって、参加者の一体感が高まった。そして、バスガイドさんの手旗にならい、スコップ型の「ここほれスコップ」を持ってナビゲーターが上町台地を案内。小さな参加者の男の子がスコップを手に隊列を先導してくれるというかわいい一場面も見られた。

このツアーでは、それぞれのスポットゆかりの方から説明を受ける。①であれば、北大江公園の管理などを主体的に行っている北大江地区まちづくり実行委員会の方、②は大阪市より管理を委託されている都市技術センターの方、③は老舗花屋「花熊」のご主人、いずれもその場所のことを知り尽くしたある種の専門家であり、お話の内容も大変興味深い。途中、活発に質問なども出て参加者の関心の高さも見てとれた。

①や②では「普段から前を通っているのに全然知らなかった」、③は「普段なかなか見られない場所を案内してもらえてよかった」という声があった。特に③の花熊さんでは、「こんな機会がないと知ることがなかった場所。地元の方から直接お話を聞けてとてもよかった。地下水もおいしかったし、上町台地の水事情もよくわかった」という感想が参加者から聞かれた。

（バード・デザインハウス・竹岡寛文）

上町台地タイムトリップ

古写真でめぐる上町台地の過去・現在

昭和初期〜戦後にかけての古写真を手に上町台地を散策します。かつて高津宮で行われていた富くじ（現在の宝くじ）にならって、行き先となる古写真をくじで引き当てるミステリーツアー方式です。古写真とともに渡される簡単な地図を元に写真の場所を探して回ります。当日は、受付場所である高津宮で古写真展も同時開催しました。

4㊏ **5**㊐ 10:00〜17:00

高津宮（中央区高津1-1-29）　予約不要・時間内随時受付

［企画］住みよいまち&絆研究所

渡された古写真を手にその場所を求めて街を散策するフリーガイドツアー。昨年に引き続いての実施で、ご好評につき2日間の催行となった。自分のもらう以外の古写真も見せてほしいという昨年のリクエストにお応えして、今年は新たに受付場所である高津宮で写真展も同時開催した。

ツアー参加者は、2日間で約60人と昨年よりも増え、ツアー参加者以外にも、写真展だけ見ていかれる方も多くおられた。ツアー参加者は、かつて高津宮で行われていた「富くじ」にならったくじで行き先となる古写真を引きあてる。写真の場所を探し歩き、見つけて戻ると缶バッチのプレゼント。この特典に誘われて、戻ってきて答え合わせをする参加者の方もあり、「今はこうなっていたよ」「雰囲気が全然変わってしまっているんですね」と感想を聞かせていただいた。また、後日ブログなどで当日の散策のようすを古写真と現在の写真を並べてレポートしてくださる参加者の方もあり、それぞれの方法で楽しんでいただいていることがわかった。

今回は高津宮の境内で、呼び込みをしたこともあり、高津宮にたまたまお参りに来ていた地元の方で写真展だけ見に立ち寄ってくださるケースが多くあった。古写真を前に「昔ここはこうやってな、これを曲がったところにあれがあったんや」と地元の方が懐かしがっていろいろと教えてくださることもあり、写真展の会場も終始和やかな雰囲気で開くことができた。また、会場でもある高津宮の宮司さんも「うちにもこんな写真あるで」と高津宮周辺の街が写ったものや年中行事などの写真がたくさん入ったアルバムを急きょ貸し出していただき、あわせて展示させていただいた。

（住みよいまち&絆研究所）

19

上町台地サイクリングマップでめぐる
オープン台地自転車ツアー

4日 各回120分 ⓐ10:00〜上町台地北コース ⓑ13:00〜上町台地南コース
うえまち貸自転車（中央区谷町6-17-43）　各回**10**名（要予約）
［企画］自転車文化タウンづくりの会

歩いてめぐるには少し広すぎる上町台地。昨年完成した「上町台地サイクリングマップ」を活用し、上町台地の魅力的なスポットを自転車に乗って効率的にご案内しました。「上町台地北コース」と「上町台地南コース」の2コースを設定。途中コース上の他プログラムにも合流するおいしいとこどりツアー。上町台地と自転車、両方を存分にお楽しみいただけました。

歩いてめぐるには少し広すぎる上町台地。昨年完成した「上町台地サイクリングマップ」を活用すれば、上町台地の魅力的なスポットを自転車に乗って効率的に巡ることができる。今回の自転車ツアーはオープン台地のプログラムをのぞきつつ、上町台地の立ち寄りスポットをまわるというもの。

松屋町駅近くのうえまち貸自転車を起点終点に、午前は北コース（参加者7名）、午後は南コース（参加者6名）を自転車でまわる。北コースでは、オープン台地関連で旧大阪市立博物館、太閤下水を見学、その他大阪歴史博物館、大阪府庁、八軒屋浜、大坂町中時報鐘に立ち寄った。旧大阪市立博物館、太閤下水については普段入れない場所だけに参加者も興味深そうに中を見ていた。南コースではオープン台地関連で高津宮にて上町台地の古写真をもらい、金剛組の実演パフォーマンスを見て、慶沢園をまわり、その他に四天王寺や天王寺七坂を巡った。金剛組の実演パフォーマンスを見ることができ、参加者もその技術に感動していた。後日、参加者が高津宮でもらった古写真の場所を探しに再度上町台地を訪れたという嬉しい報告も。

北コース終了後、南コースにも参加したいという参加者が現れるなど、自転車で上町台地を巡ることの楽しさを感じてもらえたのではないか。

そして、自転車での移動の際には、車道の左側を走ることを意識した。ママチャリや小さい折りたたみ自転車では普段車道を走ろうと思わない人に、手信号を使いながら実際に車道を走ってもらい、「いつもと違う自転車」についても感じてもらった。

（自転車文化タウンづくりの会・相澤翔平）

20

風景から考えてみる会
〜下寺町編〜

「お寺の並ぶまち」下寺町の風景をもとに、大阪市立大学都市研究プラザ博士研究員の白波瀬達也さんらとともに語り合いました。会場もお寺ですが、話のテーマはお寺に限らず、参加者からの話題提供も受け入れました。人の関心を知ることで、町並みの新しい読み方が発見できたかも知れません。下寺町に通い慣れた方から、興味はあるけどまだ来たことのない方までお気軽にご参加していただきました。

5回 15:00〜16:30
大蓮寺（天王寺区下寺町1-1-30）　**10**名（要予約）
［企画］秋田光軌(應典院)

天王寺区の大蓮寺広間にて「風景から考えてみる会〜下寺町編〜」を実施した。下寺町エリアの風景写真をスライドで眺めながら、それをもとに参加者らとざっくばらんに語り合ってみよう、という趣旨の企画であった。

前半は、企画者の秋田光軌より下寺町の独特な地域性について発表を行った。下寺町の年表的な歴史文化に焦点を当てるというよりは、中沢新一『アースダイバー』を参考に、「一人一人が自分だけの下寺町の歴史（物語）を導き出せるのではないか」ということの実践となるような内容を目指した。ここで詳細を述べる余裕はないが、下寺町において異質な文化が共存している様子を再確認できたように思う。

後半は、まず白波瀬達也さんから、下寺町という場が現代社会においてどれだけプレゼンスを発揮しているのか、もしくはどのような形での社会との関わりが寺院に求められているのか、といった視点から、釜ヶ崎などの地域で行われている仏教者の社会貢献活動についてコメントをいただいた。ほかの参加者からも、それぞれの個人的立場から「お寺」や「お坊さん」について問い直すような意見をいただきつつ、様々な話題を採り上げることができた。

企画者としては、必ずしも「下寺町（上町台地）の歴史文化」だけに限定されない、広いテーマの話を展開できればと考えていたが、参加者からは「歴史文化について教えてほしい」という声が最も多く、それに関する知識の乏しい企画者にとって、話の展開に困ってしまう場面も多かった。しかし、下寺町という場所について、皆で結論を断定してスッキリするというよりは、余計にモヤモヤと考え始めるきっかけを見出したような、そんな時間を過ごせたように思う。

（應典院・秋田光軌）

21

とらとうちゃんと行く、

上町台地の抜け穴伝説ツアー！

5回 10:00〜12:00

JR大阪環状線玉造駅の改札前　20名（要予約）

［企画］藤田ツキト（物々交換デザイン シカトキノコ）

上町台地には、真田幸村にまつわる伝説で大坂城への抜け穴が2つあったとされています。ひとつはいまも三光神社に実在する玉造の「真田の抜け穴跡」。もうひとつは天王寺の茶臼山界隈にあったとされますが真相はいかに！その2つの抜け穴にまつわるエピソードを検証しながら玉造のキャラクター「とらとうちゃん」とともに電車に乗って玉造〜天王寺を散策してみました！

かつて大阪城から上町台地に抜け穴が作られた。その名は「真田の抜け穴」。大坂冬の陣で真田幸村が作ったとされ、その抜け穴の入口は現在も銅像と共に玉造の真田山界隈に存在している。また徳川家康が天王寺の茶臼山に本陣を置いたことから、茶臼山界隈にも抜け穴があったという伝説もあるようだ。その2つの抜け穴伝説を検証しながら、玉造から天王寺までを歩く「とらとうちゃんと行く、抜け穴伝説ツアー！」を企画した。

その前に「とらとうちゃん」とは玉造の非公式キャラクターであり、玉造を勝手に盛り上げるとらのお父さんである。今回はそのとらとうちゃんが参加者を楽しませながらツアーを先導した。

まずはJR玉造駅に集合し、真田幸村像と真田の抜け穴が存在する三光神社へと向かう。ここからは玉造・天王寺界隈でギャラリーを営む抜け穴に詳しいお2人、d.d.豆四郎さんとのりまきせんべいさんを招いて、諸説あると言れるが独自の視点や見解で伝説ガイドをしていただいた。

次に玉造駅へと戻り、JR環状線に乗って、「玉造駅」から「天王寺駅」まで電車で移動。もちろんとらとうちゃんは事前の許可を取って乗車。天王寺公園から動物園と続く道の途中で茶臼山の抜け穴伝説についても解説いただいた。

最後は茶臼山の北に位置する安居神社へと向かう。ここは「真田幸村戦死跡之碑」と刻まれた石碑が立っており、大坂夏の陣でまさに戦死した場所である。境内の前で記念撮影をしてこのツアーは終了。

真田山・茶臼山2つのエリアで起こった出来事、真田幸村との関係やそれにまつわるお話が聞けたことは非常によかった。少々歩く距離が長かったことが参加者の負担になっていたことが課題のひとつではあるが、とらとうちゃんが先導している風景も注目をあびたのではないだろうか。

（物々交換デザインシカトキノコ・藤田ツキト）

「上町台地オープンフェスタ in 天王寺公園・動物園」のオープニング講座として、上町台地の歴史に詳しい大阪歴史博物館の大澤研一学芸員による「おどろき大変身天王寺・新世界史」と題したミニ講座を開催し、天王寺公園内の茶臼山古墳や現在の新世界、天王寺動物園、天王寺公園一帯で1903年（明治36年）に開かれた内国勧業博覧会や博覧会開催前の様子をわかりやすく、当時の写真や地図をスライドショーしながら解説。上町台地の歴史や当時の様子を聴講された皆さまにも興味をもっていただけたと感じている。

天王寺動物園の来園者層はお子様連れが多いため興味があっても聴講できない方も多数おられた。今後は子供向けの講座内容にする等、工夫が必要かもしれない。

オープニング講座修了後は、動物園ステージにてゆるキャラ®たちによるパフォーマンスが開催された。動物園ゴーゴくんの呼びかけと玉造の「とらとうちゃん」の協力で上町台地界隈からは、ゆめまるくん（中央区）、ももてんちゃん（天王寺区）、あべのん（阿倍野区）、くしたん（新世界）。とらとうちゃんの友達として、くまモン（熊本県）、たいしくん（大阪府太子町）、ゴーちゃん・しん坊くん（三重県津市）。さらに、南河内のご当地ヒーロー、英雄戦隊コーダイガーもやってきた。来園する多くが親子連れやカップルのため、ゆるキャラ®たちのステージパフォーマンスに足を止めていただき、特にヒーローショーは子供たちにも大人気で会場は多いに盛り上がった。

上町台地のつながりが、人と人からキャラとキャラにまで発展した。今後もステージを使った地域のイベントを開催してもいいのかもしれない。都会の真ん中にある天王寺公園や動物園をもっと多くの人に利用してもらいたい。

（天王寺動植物公園事務所＆とらとうちゃん）

オープニングは、大阪歴史博物館大澤研一学芸員によるミニ講座。この地のドラマチックなおいたちをお話しいただきました。その後は天王寺公園・動物園内を開放し、上町台地を中心としたゆるキャラ®がステージでパフォーマンスを披露！天王寺動物園の「ゴーゴくん」をはじめ各キャラクターが公園内をお散歩しました。玉造の「とらとうちゃん」もサプライズなお友だちを連れてやってきました！

5回 13:30〜16:30（時間内観覧自由）

天王寺動物園内レクチャールーム（天王寺区茶臼山町1-108）予約不要

［企画］天王寺動植物公園事務所［協力］とらとうちゃん（玉造街おこし実行委員会）

22

上町台地オープンフェスタ！ in天王寺公園・動物園

オープン台地連携企画

オープン台地の開催にあわせて、多様な連携企画を開催！　子どもからお年よりまで、国籍も越えて楽しめる6つの企画をふり返ります。

窓正面に大川剣先の噴水、左を向くと中之島公会堂、右にはOBPが見える事務所で、まちと家の関係について考えるきっかけとしておうちを設計するという企画。まずは自分の家に対する思いやイメージを書きだしてから、敷地と道路の関係に配慮して部屋割りをします。床材を貼り、キッチンやベッドのパーツを配置するととたんに家らしくなりました。参加者は久しぶりの手作業についつい熱中し、時間があっという間に過ぎた様子。主催した側にとっても設計という仕事について理解を深めていただける貴重な時間となりました。

4土 **5**日（各日2回・各60分）ⓐ13:00～ ⓑ15:00～
えぬぷらす（中央区北浜東1-29 北浜ビル2号館7F） 各回**10**名（要予約※小学生以上）

おうちを設計してみよう

23

会場の山本能楽堂は「大阪・谷町の能楽堂」として80年以上の歴史をもち、平成18年には登録有形文化財（建造物）の指定を受けている。オフィス街に佇む木造三階建ての外観と、伝統的な能舞台をもつ。今回の企画では大阪を代表する「能、狂言、落語、浪曲」を体験した後、楽屋や、舞台の下に音響効果を高めるために配置された12個の瓶などを見せていただいた。参加された方は普段は見ることができない舞台裏の説明を聞き、しきりに感心していた。

4土 18:00～20:30
山本能楽堂（中央区徳井町1-3-6 ）※このプログラムのみ直接主催者にお申し込み

上方伝統芸能ナイト+α

27

大阪市中央区、都会の真ん中にある空堀の商店街では、古くから商売をされているお店が多く並ぶ。このプログラムでは集合した参加者が主催者から商店街のおおまかな説明を受け、グループに分かれて商店街を散策。お店の人からまちのことなど話を聞いて歩いた。その後それぞれがマップ片手に商店街でごはんに合う好みの逸品を購入し、みんなで持ち寄りどんぶりをつくる「からほり生活疑似体験」である。参加者はそれぞれのどんぶりに名前を付けて発表した。

4土 ⓐ13:00～15:30 ⓑ16:00～18:30
松屋町駅3番出口前集合（地下鉄長堀鶴見緑地線） 各回**10**名（要予約）

からほり丼をつくろう
オープン商店街×からほりごはんpart1

24

大阪国際交流センターで行われた「19thワン・ワールド・フェスティバル」。国際協力の現場報告や販売、民俗音楽や踊りのステージなど様々なプログラムがあり、外に出ると民族料理の模擬店がずらりと並んでいました。会場の中も外も人！人！人！たくさんの人と楽しい音楽が聞こえてくる会場でした。会場内のいたるところにクイズの紙が貼ってあり、その答えはいろんな国の方が知っているといった感じのゲームもあり、子どもから大人までたくさんの人が各国の方と交流していました。そして音楽のステージも、聴いている子どもが踊りはじめたりと、とても楽しい空間でした。

4土 **5**日 10:00～17:00 予約不要・時間内随時受付
大阪国際交流センター（天王寺区上本町8-2-6）

19thワン・ワールド・フェスティバル

28

商店街の一角にある空き店舗で1日限定の“ゆるカフェ”をオープン。空堀の商店街の楽しさやおいしさをしってもらう企画を行った。前日に行われた「からほり丼をつくろう」の写真展示や周辺店舗のランチ情報、商店街の食材を使った試食コーナーなどを設置した。壁一面に張られた「ぶら空堀MAP」には商店街の全店舗とオススメ情報が掲載されており、訪れた人は興味深く見入っていた。

5日 10:00～16:00 予約不要・時間内観覧自由
旧澤井亭 空堀商店街内（中央区谷町7-6-34）

ゆるカフェオープン！
オープン商店街×からほりごはんpart2

25

上町台地で、煎茶・文人趣味を継承する一茶菴宗家の、煎茶数奇屋建築の一室を開放した。「煎茶・文人趣味の歴史」、「煎茶・文人趣味と上町台地の関わり」についての話や、開放した部屋の中にしつらえた掛け軸や煎茶道具の話をしながら、お茶やお菓子を楽しんでいただいた。来ていただいた方々には、茶の湯と似ているようで全く違う煎茶という茶文化の魅力を体感していただけたのではないだろうか。しかし、今回来ていただいた方々の多くは、もともと煎茶に興味のある方たちだった。上町台地に住む人や、上町台地の歴史文化に関心がある方々を集める努力をしなければならない。

4土 **5**日（各日2回・各120分）ⓐ10:30～ ⓑ14:00～
一茶菴（中央区大手通1-1-1） 各回**15**名（要予約）

煎茶のサロン

26

上町台地ゆかりの「ちんどん通信社」。広報部隊としてあちこち出没しました。

29

30

全員集合！オープニングレセプション

「オープン台地」プログラムの企画者やスタッフが一堂に会して、各プログラムのみどころや楽しみ方を大発表！気になるプログラムの企画者本人や、全体の進行をまとめているディレクターと直接話ができたりして、翌日からの「オープン台地」をより楽しむためのポイントを見つけられたのではないでしょうか。

3金 19:00～21:00　**高津宮**（中央区高津1-1-29）　**30**名（要予約）

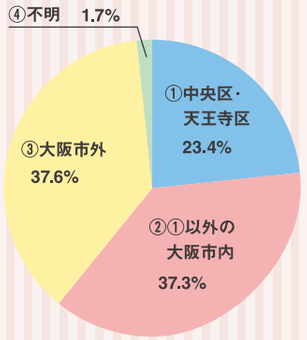
オープン台地vol.2をふり返るクロージングトーク

偶数月の第3金曜日に上町台地のどこかでオープンする「プラッとCafé」、2月は特別版で実施！オープン台地を振り返るクロージングトークを開催しました。各プログラムの報告や裏話を楽しく語り合いました。各プログラムのディレクターも大集合し、参加出来なかったプログラムもこれでばっちりフォローできたのではないでしょうか。

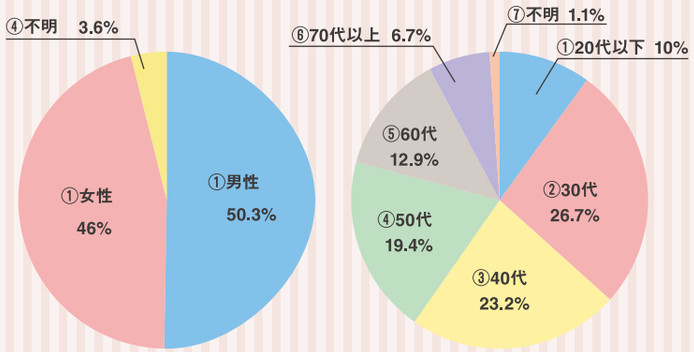
17金 19:00～20:30 **天王寺区役所講堂**（天王寺区真法院町20-33） **100**名（要予約）

アンケート集計結果 （アンケート総数367名）

設問1 現在のお住まいの地域

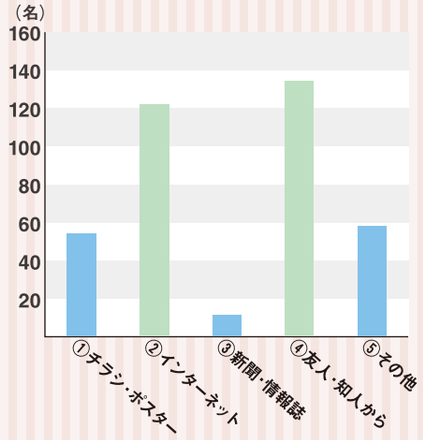


設問2 年齢層・性別について



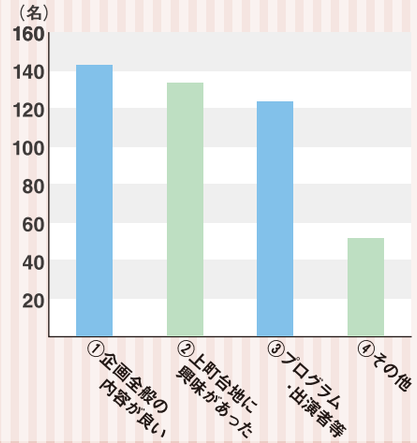
設問3 今回のイベントを何で知ったか

（複数回答可）



設問5 オープン台地に参加した理由は

（複数回答可）



設問6 上町台地の魅力

＜まちなみ・雰囲気＞
- 歴史に裏打ちされた街並みの品の良さ。
- 広く古き良き雰囲気。
- 寺町、坂道、史跡等、重層する魅力。
- 下町の良さが残っているところ。
- 起伏に富んだ町なみと歴史。
- 坂の町大阪の文化的景観。
- 落ち着いた雰囲気のあるところ。
- 都会化していないあたたかさ。

＜新旧の混在・多様性＞
- 多彩さ。
- 古いもの、新しいものが混在しているところ、親しみやすいところ。
- 歴史や文化の蓄積と現代のハーモニー。
- 文化、商業、仕事が一体となっているところ。
- 都心にありながら下町らしさが残っているところ。
- 交通の便がよく、ビルばかりではなく、寺や神社など古い文化も残しているところ。

＜生活＞
- 近隣の輪が楽しく、安心の町である。
- 利便性がある。災害に強そう。
- 暮らしやすい気がする（住・遊・働で言えば住で、遊・働もある）。
- 商店街。
- 交通のアクセスと土地歴史があるので、住んでいてもまちを歩くと面白いことがいっぱいある。

＜坂・地形＞
- 台地という高低差が上町の魅力だと思う。独特の景色があると思う。
- 坂が多い、歴史がある、古い 町並み。
- 地盤の堅さ。

＜場所＞
- 歴史ある場所。詳しく知る事で想像が広がり、大阪が大好き、楽しくなる。
- 段差、名所図会ポイントがたくさん。
- 都心の魅力。

＜史跡・遺産＞
- 史跡や見学場所がたくさんある。大阪城も良い。
- 歴史遺産が多くある。
- 文化的な遺産がたくさんあること。

＜人・活動＞
- 歴史、情緒、地元を愛する人が多く住んでいる。
- 楽しんでいる人が多い、楽しませようとする人が多い。
- 様々な活動をする人が集まっているから。

＜神社仏閣＞
- 歴史ある神社。
- 仏閣が多く、古めかしいたたずまいが魅力。

＜建物＞
- 歴史的な建物が現存する。
- 古い建物が多くて好き。

＜自然＞
- 緑があっていい。

＜歴史・文化＞
- いろいろな歴史の積み重ねと暮らし。
- 歴史が沢山あり、よい建物と街の文化が残っている所。
- 歴史がつまっていること、さりげなさ、古きよき大阪。
- 大阪の背骨、日本歴史、ルーツ、土地の形状の面色さ、坂や眺望、歴史の宝庫。
- 多様な文化が残っているところ。土地を愛している人が多いこと。

＜特定のエリア＞
- 以前の職場が上町台地にあった。大阪城がある。
- 高津宮、生國魂神社。
- 茶臼山。

＜その他＞
- 温故知新。
- 歩いて楽しい。
- 地形、街全体、街の人、オープン台地inOSAKAがおこなわれること。
- 時間の流れのゆるやかさ。
- なにかとすばらしい。
- ゴミゴミしていない。広いスペースがある。
- たくさんありすぎておもしろい。
- 行儀がいい、由緒がある。

設問7 オープン台地に関するご意見・ご感想

＜感想＞
- みなさんとてもていねいに説明してくれた。
- 町のことをさらに知ることができてよかった。新しい発見がたくさんあった。
- 参加してよかった。楽しかった。次回も参加したいと思った。こういうコミュニティーは楽しい。
- まちの魅力をいろいろな人が企画を立て、紹介するという試みがとても興味深く、また楽しめました。
- 上町台地にお住まいの方や深く関わっておられる方のお話をうかがうことができ、とても勉強になった。
- とても良い、ありがたいイベント。 街の魅力は一歩なかに入らないとわかりにくい部分もあるし、コンセプトも素敵だ。
- いろいろなプログラムがあり、楽しませていただきました。次回も今回のような様々なプログラムを楽しみにしています。

＜要望・改善点等＞
- 過去からの連続した文化を大切に、このような取り組みは続けていただきたい。
- 継続的なイベントの実施。実験結果や追跡検証の結果を知りたい。
- 単なるガイドツアーだけでなく、からほり丼を作ったり、空庭で人と出会って話したりと、人と交流し体験できるイベントを続けてください。
- 点から線、面への展開を望む。
- 同じ感じで開催してほしい。
- 自分もスタッフとしてお手伝いしたい。
- 大阪に住んでいながら、知らないことが多く、嬉しい驚きがたくさんあった。金剛組のような伝統の技の紹介などまたしていただきたいです。
- 普段見ることのできないもの、経験したことのないことが楽しめる企画を。そして今後も続けていただければ。
- 単なる『街探索のガイド・ツアー』だけではなく、『見知らぬ人同志』が『上町台地』で『出逢い』『集い』、『体験』『作業』を通じて『語り合い』、『交流』できる『イベント』にしていただけるようお願い致します。次回以降は自分も『スタッフ』として『お手伝い』として参加したいです。
- イベントよりも常設のまちづくりや情報発受信の拠点があるといいと思う。古写真なら常設の展示場など。
- 多彩な催しだが、PRが不足していてあまり知られていないように思われる。
- 平日昼間の企画、大歓迎。
- 季節のよい4月・5月あたりに開催して欲しいです（桜の時期がいいですね）。
- ツアーを有料にされたらと思う。今後も続けるべきなので、維持のためにも1000～2000円/回位なら参加者も意識の高い人が参加すると思う。
- 参加したい開催イベントが重複しているので、開催期間の工夫がほしい。
- ガイドがもう少し欲しかった。ガイドさんの見解などもっと伝えてもらったらより良くなると思う。
- 「活動資金のための寄付」であれば、はじめから伝えていただけたらと思います。「自発」を「要請」されるのは、少し違和感がありました。
- イベントそのものの面白さ→上町台地の面白さにつながるような見せ方、ができればと思いました。BGM、twitter、リアルタイムのスライド展開、少し気が散りました。でも趣向が素敵でした。
- 普段、見れないところを見れるのは貴重。さらにその後にグループワークや交流できる場があれば尚、良しでしょうか。
- お手伝いにボランティアスタッフとかで参加を募ればいいのに、せっかくオープンなのだから参加の入り口も。送り手と観客に完全に別れているのが残念。実際は難しいだろうとは思う。

おわりに

2012年2月3日（金）から5日（日）昨年度に引き続き「オープン台地 in OSAKA～上町台地のまちびらき～」が開催された。前回と比べ10個のプログラムが増え、賑やかな催しとなった。この企画は上町台地全体を網羅しており、普段は入れない建物などが公開され、その場所に関わる人に案内をしていただいた。歴史や文化、新しい取り組みなど、この企画を通し多くの資源に触れ、改めて懐の深いまちだと感じた。運営側としては様々な視点からまちをとらえ、より多くの方に楽しんでもらいたいという想いが強かった。

今回の副題は「上町台地のまちびらき」である。そもそも「まち」とは閉じるや開くという言葉で論じるものではないが、ただアクセスするのとはひと味違う工夫を各プログラムディレクターが用意してくれた。とかく閉塞感が漂うと言われがちな大阪であるが、今回のオープン台地運営に携わった人達を見るにそうは思わない。地域資源が豊富な上町台地であるが、人的な資源に大変恵まれていることに何よりも誇らしい。時間が許す限り多くのプログラムに参加し、参加者の顔や場の空気を感じたが、どれもが楽しげで心地よく、普段は見過ごしがちな風景や日々の生活に満足していたように思う。また昨年からのリピーターも多数おり、継続する大切さも痛感した。各企画の詳細については前述の報告にあるのでぜひお目通しいただきたい。

話はそれるが2011年に起こった一番大きな出来事は東日本大震災だろう。恒久的に続くと思っていた平和な日常が、がらっと変った瞬間であった。普段おだやかな大地が揺れ、海が荒れ狂うさまを見て、人智の及ばないものを感じた。経済的に成熟した現代でおいてけぼりになっているものに危惧の念を抱いた人は少なくないはずである。震源地から比較的遠距離にある大阪にも大きな影響を与えた。平時には考えられない事態が、有事には起こりえる。その時の備えとして、普段から地域の人間がコミュニケーションを図り、関係性を保っておく必要性を感じた。建物そのものがもつ魅力はもちろんだが、人と人のつながりをつくる場とすること。これが今回のオープン台地の命題であったように感じる。

オープン台地は上町台地の魅力を広く多くの方に知ってもらうツールが建物や生活（住む／働く）ということだけが決まっている。制限ももちろんあるが、自由なキャンパスにそれぞれが自由な色で絵を描けるのだから可能性は無限に広がっているように思う。まちという共有の資産を使って思う存分遊べる機会をもてることは幸せなことではないだろうか。

次年度以降の動きはまだ見えないが、本企画でいただいた縁を大切にし、良い流れを止めないように努力したい。最後に本企画の開催にあたりご協力をいただいた方のご厚情に深謝いたします。

オープン台地 運営チーム　釜中悠至

今回のオープン台地では、9つのプログラムに参加した。これらのプログラムを通じた体験と外部からの参加という視点から振り返ってみたい。

まず、オープン台地のプログラムの特徴として、タイトルのとおり、多くの場所や建物が開かれている。特に、普段、内部に立ち入ることのできない建物やその敷地に入るということは、見たことのない景色を体験するという点では、冒険的なおもしろさがある。これに対して、今回はじまった02大阪府庁や03天王寺区役所など、時間的にも、意味的にも、本来開かれている、公の行政（施設）であるにもかかわらず、その建物の開放されていない部分を、わざわざ限定された共有空間として開けて楽しむという点は、新しい開かれ方である。このような開かれ方のバリエーションが広がるとともに、深化することに期待したい。

オープン台地のような体験プログラムにおいて、徒歩や地下鉄などとともに、自転車もまたポイントをめぐる移動ツールである。私自身が自転車のまちづくりに関わっていることもあるが、ブームとともに自転車が注目され、これまでの歩道走行から車道走行へ流れが変わりつつあるなど、そのとりまく環境が大きく変化していることは目下の関心事である。そのような中において19自転車ツアーの、車両として実際に車道を集団走行するという体験の共有は、新しい感覚であった。自転車で車道を走行することによって、道もまた、開かれる対象であるとともに、身体を通じた新しい作法の共有方法であることも再認識させられた。やや飛躍的ではあるが、自転車を乗るという作法だけでなく、四天王寺の日想観や煎茶の作法など、まちや暮らしを「巡る」ための身体的作法という点が重要になってくると考えている。

それから、場所や建物が開かれるためには、顔の見える人たちが、顔の見える範囲で人間関係を担保にしているという文脈を理解しなければならない。開かれることによって、開かれる側はゲストとしてまだ見ぬ景色に対する期待感を、開く側はホストとして見られる、記録されることによる緊張感を意識せざるをえない。このため、開かれた場所が舞台となって、新しい物語が生まれている。

したがって、そういう関係者の尽力によって物語が生み出されるオープン台地もまた、落語などと同じく、演芸的な要素があるとともに、モノ、ヒト、場所などそれぞれの関係が価値を生み出す「関係価値」によって支えられている。このような、関係価値の広がりはわかりやすい。しかし、地域での暮らしを担うことが難しくなっている中で、こういった関係を継続していくことが重要である。個人的には、昔、行われたまちづくりイベントのリバイバルや実施できなかった過去のイベントアイデアなどを実現することで、過去に通ずる現在を開く、新しい開き方としての提案を勝手ながら期待している。

クロージングトーク ゲストスピーカー　近藤紀章